

陸上自衛隊弘前駐屯地の施設見学で車両整備の仕事について学びました

自動車整備科の1年生が陸上自衛隊弘前駐屯地で施設見学を行いました。はじめの概要説明では、陸上自衛隊の車両整備員の主な仕事は、部隊で保有している車両の整備、管理の仕事をしているということで、弘前駐屯地ではいろいろな職種(普通科連隊、偵察隊等)の自衛隊員が勤務しており、その職種ごとに必要な車両を保有しているということでした。



隊内で使われているトラック、高機動車及びタイヤドーザーなどの建設機械は、一般車検に該当する整備や検査が独自に行われていました。本校の先輩も数名入隊しており、「車両が故障により、任務に支障が起きないように整備しています。」という言葉がありました。自衛隊は多くの各種自動車を保有しており、自動車整備科が目標としている自動車整備士の資格を活用することが可能となるので、ディーラー、民間整備工場以外にも「自衛隊」という進路も選択肢のひとつとして考えることができた施設見学となりました。

社会に出る前のインターンシップ 現場での仕事体験を通して何が大事なのか学ぶ機会になりました

自動車整備科の1年生は、自分に合っている就職先の選定ができるように10月と11月に県内のディーラーなど、1人当たり2社でのインターンシップを行いました。インターンシップに参加した学生からは、「実際に店舗で自動車整備の一部の作業をさせていただきましたが、車両整備を担っている社員の方は、直接、整備内容についてお客様とやり取りをしながら整備個所の確認や整備内容をお客様に分かりやすく説明していました。今までは整備さえしっかりできればいいと考えていましたが、整備士は、車のメンテナンスと接客がセットになっているため、お客様とのコミュニケーション能力も求められることに気づきました。」「整備士になるには、自動車整備士の国家資格を取得しなければなりません。今後の授業や実習では車の構造や仕組みを理解し、車の状態を正確に判断する能力とコミュニケーション能力を高めることが大事だと思います。」との感想がありました。今回のインターンシップで学んだことや経験を今後の就職活動に最大限活かせるよう、がんばってほしいと思います。



若年者ものづくり競技大会で入賞した山家磨袋斗さんが表彰を受けました

令和5年11月2日(木)「ホテル青森」(青森市)において第52回青森県職業能力開発促進大会が開催されました。当日は県内各地から多くの関係者が参加しており、職業能力開発に関する功労者の表彰(県知事表彰、東北職業能力開発協議会長表彰、県職業能力開発協会会長表彰、県技能士会長表彰)等が行われました。同大会で青森県立弘前高等技術専門校建築システム工学科2年生の山家磨袋斗さん(青森県立青森工業高等学校建築科卒業)が、今年の8月に静岡県で開催された第18回若年者ものづくり競技大会の建築大工職種で敢闘賞を受賞したことから、青森県職業能力開発協会の会長である勝又貞治氏から表彰を受けました。

また、NPO法人あおもりの木で地域を支える「伝統と技術」の会の大山重則理事長による記念講演では、総合建築科1年生が「県産木材の活用と職人の技術伝承」について、県産材で建てた数寄屋建築や伝統工法で建てる建築の意味など、会の取組状況や実例を交えたお話を拝聴しました。



2年生から始まる「施工コース」「管理コース」に向けて 自分に合った仕事を見極めるためにインターンシップを行いました

総合建築科の1年生21名が、「建築設計」「現場管理」「現場施工」などの仕事を体験することで、現場での技能スキルやコミュニケーション能力の向上、2年次での納得のいくコース選択、進路選択におけるミスマッチの防止、就職に対する不安の低減等を図るため、県内各地域の企業でのインターンシップを行いました。3日間から5日間のインターンシップでしたが、学生のみなさんは建設業界の仕事内容について理解を深めることができたと思います。



大成建設株式会社のキャッチコピー「地図に残る仕事」 (仮称)青森市アリーナと青い森セントラルパーク建設工事現場を見学しました

総合建築科1年生と建築システム工学科2年生の学生を対象に、青森市中心部の青森操車場跡地に建設されている(仮称)青森市アリーナ及び青い森セントラルパーク建設工事現場の見学を行いました。この見学は、建設業界の未来をつくっていく担い手を育てるために、学生の「知りたい」と建設事業者の「知ってほしい」を結ぶ機会を創出し、若年者の建設業への理解を深め、建設業界への入職促進と職場定着を図ることを目的に厚生労働省が行っている「つなぐ化事業」を活用して実施しました。



はじめに、大成建設株式会社東北支店青森営業所の梨本嘉勝所長から事業概要をはじめ、施設概要等の説明を受けてから現場を見学しました。(仮称)青森市アリーナの建設工事は令和4年4月に始まり、現在は躯体工事や鉄骨工事が終わり、建物内部の仕上げ工事が進められており、見学した学生は、「工事の規模感、雰囲気、現場で使用されている機材及び活躍している先輩方と意見交換をすることができ、とても勉強になりました」「座学で学ぶのと実際に見るのでは全然違って、自分の将来の視野を広げるよい刺激になりました」「私も将来は現場にも出てみたいと思っていて、現場で活躍する女性の方を見て、自分の中ではすごく勇気づけられました」などの感想がありました。普段教科書では学ぶことのできない、大規模な工事現場を見学することができ、大変貴重な時間を学生と共に過ごすことができました。特に、建設現場での安全管理や最新技術の工法などを直接見学することができた学生たちにとって、建設業界の現状と素晴らしさを知ることにつながりました。

ものづくりへの興味・関心を深めてもらうために 蓬田村立蓬田中学校で「ものづくり体験出前授業」を開催しました

蓬田村立蓬田中学校において、建築関係に関わるキャリア教育と技術科の指導の一環として、全校生徒を対象に「ものづくり体験出前授業」を行いました。開催のあいさつの後生の対馬志織さんから生徒のみなさんに対して、「建設業を目指そうとしたきっかけ」として自身の経験やこれからの目標について話してもらいました。木材加工の実演では、今ではあまり見ることのできなくなった2本の柱を1本に組み合わせて継ぐ「継手」の加工について、担当職員と建築システム工学科2年生の学生が「追掛大柱継ぎ」を実演し、生徒のみなさんにも手伝ってもらいながら継手を完成させることができました。その後、6つのグループに分かれて、かな掛け、釘打ち、墨打ち、のこ引き、電動工具であるインパクトドライバの取扱い方等を学んでもらい、加えて3年生のみなさんには、卒業製作として「学校に残すベンチ」を作る体験をしてもらいました。体験出前授業の最後は、「ひば材を使ったティッシュケース」を作りました。お互いに年齢もそんなに変わらないせいか、生徒のみなさんと学生が笑顔でコミュニケーションを取り、相手に分かりやすく作業のコツを教える学生と説明を聞きながら熱心に取り組む生徒のみなさんの姿が見られました。今回の出前授業を受けた生徒のみなさんがこれを機に「ものづくり」への興味・関心を深め、技能・技術の大切さに気付いてくれることを期待したいと思います。

